

2024 年度第 7 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

1 日 時：2024 年 10 月 8 日（火） 午後 8 時 00 分から

2 方 法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9 名

出席者：座間直壯、雨谷逸枝、清田義昭、小池信彦、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、堀 渡

欠席者：保坂一房

（1）第 1 号議案 会員の動向について

【報告】

- ・ 10 月 8 日（本日）現在
- ・ 正会員：個人 77、団体 2（計 79） ・ 賛助会員：個人 27、団体 2（計 29）
合計：個人 104、団体 4（総合計 108 名・団体）
- ・ 第 3 回理事会（5 月 21 日）の報告時から、変化はない。
※今年度会費の入金時に、今年度限りでの退会を申し出られている賛助会員が 1 名。

（2）第 2 号議案 第 5 回理事会から今日までの活動経過

【報告】

- ・ 前々回理事会（8 月 7 日）以降の活動を報告する。
- ① 第 9 回事務局会議 8 月 23 日（金） 都合が悪く、延期となった。
- ② 第 6 回理事会 9 月 2 日（月） 第 2 回多摩地域ライブラリアン講座の応募が少ないので、募集期間の一か月延長を決定した。
- ③ カーリルとの共同研究定例会 9 月 16 日（月） 今年度の I S B N の機械的推定と検証作業の打合わせ。
- ④ 第 9 回事務局会議 9 月 27 日（金） ライブラリアン講座、I S B N の機械的推定と検証、多摩デポ講座の企画、ブックレットの編集など、全般的な内容を討議した。
- ⑤ 9 月末から、里親探し事業に三鷹市、調布市の図書館から提供の申し出あり、返事
- ⑥ と蔵書調査を行っている。
- ⑦ 多摩地域ライブラリアン講座のワークショップの打ち合わせを担当者で行った。

（3）第 3 号議案 第 2 回多摩地域ライブラリアン講座の開催について

【報告】

- ・ 7 月初旬から、12 名定員で受講生の募集を開始した。8 月 31 日の締切を過ぎて応募が 3 名にとどまったので、9 月 2 日（月）に臨時に理事会（第 6 回）を行った。3 名を受講生として受け入れる一方、9 月末まで期間を延長し募集を続けてきた。

- ・その結果、その後7名の応募があり、計10名（昨年度と同数）となった。
- ・内訳は、多摩地域の公共図書館員7名。元学校図書館員2名。他県の図書館員1名。多摩デポ会員は4名、非会員は6名。今回は、40代以上が大半を占めている。
- ・予定締切日までに応募していた3名には、9月初旬からオンデマンド講義のコンテンツは既に公開していたが、これから10月中に、全員に対してZOOMによってワークショップの説明会を行い、講座を進めていく。
- ・開始までに時間がかかり、7名には受講日程が少しきつくなるが、職歴の長い人が多いので対応できるだろう。ベテランが多く受講者からの反応には期待がもてる。

【討議】

- ・参加者の顔触れは、ベテランや分館長・副館長クラスの方が半数以上になる。一方で、9月初めから受講しているうち2人からは、オンデマンド講義を視聴後のレポートがまだ一つも出ていないことが懸念材料。
- ・講座全体に対する批評なども、受講後には返してくれるような受講者ではないかという期待がある。こうした方がいいではないかというような反響も期待している。
- ・受講生が10人になった。グループの班分けをどうするか？3つに分けるか2つに分けるか、ワークショップの日程をどうするか、これから検討したい。

（4）第4号議案 多摩デポブックレット第17号の編集について

【報告】

- ・総会での田中久徳氏の記念講演を元に、『ブックレット』第17号を作成する準備に掛かり、担当者が文字起こしを行ってきた。
- ・内容の濃い講演で時間がかかったが、ようやくブックレットの標準の54ページに収まる17,000字程度にまとめた文章と、講演の際に使われたパワポ図表から選んで数枚入れた「稿1」が出来上がった。
- ・当初、1章から3章までの講演のうち、メインの3章を中心にしたいので1章と2章はできるだけ短くする予定だった。しかし1章は他ではあまり聞けない内容で、興味深いお話でもあったので、つい長くなってしまった。
- ・2章はごく短くした。NDLのホームページを丁寧に読むとか、NDLの研修を受講すれば分かるようなこと、他の手立てがある内容が多いので縮めた。
- ・3章は、元よりは短くしたが、講師には書き足したいことが多いと思われる。さらに3、4千字程度は増やされても構わないと思う。
- ・これから「稿1」を講師に見せて修正や加筆をしてもらう一方、出版社に出版時期や経費等の相談を行える段階となった。

【討議】

- ・講師にさらに加筆できる余地を残して「稿1」にまとめてもらえたのはよかった。あとは講師にお見せして直してもらえばいい。

- ・今回の講演には、講師がHPに公開していいと提供してくれたパワポ資料や、その後書いてくれた講演要旨が既にある。講演要旨を膨らませた方が理論的には分かりやすいのかもしれない。しかし講演の録音を文字に起こし、講演の雰囲気が残るように編集したので、出来上がったら『ブックレット』を使ってもらえたらいい。
- ・臨場感というか、そういう感じはある。講演要旨とは違う。
- ・田中氏の講演は、地域の公立図書館群で一度は蔵書になったタイトルを出来るだけ残そうと多摩デポや館長会が行ってきた運動に、NDLの俯瞰した視点から意義についての示唆を与えるものだ。またNDLの蔵書デジタル化の進行という新たな事態をどう踏まえるかという、問題提起をしてくれた。完成した『ブックレット』を元に、さらに議論を広げていきたい。
- ・今のまま順調に行けば、発行は年明けだと思う。

(5) 第5号議案 府中市立図書館の蔵書目録中、ISBN未記載の書誌データへのISBNの機械的推定と検証作業について

【報告】

- ・9月16日に開催した(株)カーリルとの研究会では、以下のように決まった。
 - ・昨年度に行った「児童書データ」に続き、今年度は「一般書9門」の作業を行う。
 - ・(株)カーリルは、これまでの結果を踏まえて機械的推定システムを改良し、府中市の該当データを再びシステムにかけ、検証のための新たなデータを提供する。多摩デポはすぐに作業に掛かれるよう、できる準備を進めておく。府中市蔵書でISBNが未記載の一般書は多いが、機械的推定が正しく行なわれている確率が高そうな1000件程度の検証を行うことになった。
- ・この作業でのボランティアとの協同は2回目で、継続参加してくれそうな方もいるので、順調に行えることが期待できる。ボランティアのスムーズな受入れのため、事務局員・理事で200件程度の検証作業を念のため先行して行い、作業マニュアルの再整備をしておくことになった。
- ・しかし(株)カーリルから、なかなか新たな機械的推定データが送られてこないのので、9月22日から、以前に提供を受けた機械的推定データの上澄み200件を事務局員・理事で分担して、試行作業を開始した。
- ・ところが試行作業していると、NDL蔵書がヒットしていながら、TAMALASでそのISBNを入れて検索するとNDLがヒットしないケースが何件もあった。またTAMALASで検索をしてNDLの所蔵が出ないから、NDLを書名検索すると、ISBNが記載された蔵書データがあることがたびたび出てきた。
- ・このままでボランティアに作業を広げると、TAMALASの信頼性が疑われる。そのため事務局員で行っている作業はいったん中断して、(株)カーリルに原因を調べてくれるようと連絡した。まだ返信がない。

- ・府中市には今年度中には一般書のデータを返したい。もう 10 月なのでボランティアに加わってもらい段取りに移らねばならないところだが、滞っている。

【討議】

- ・本来なら I S B Nを入れればヒットしていたNDLの蔵書が、T A M A L A Sでヒットしなくなっている。しばらく待つしかない。
- ・復旧されれば作業に入れるし、ボランティアにも呼びかけて作業に参加してもらい段取りが出来ている。改良したマニュアルもあるので、実際に作業に入ってボランティアとマニュアルの分かりやすさの確認もしたいところ。だがこのまま作業に入ればTAMALASの信頼を損なう。もう少し様子を見よう。
- ・昨年度に返した児童書データは、府中市では児童担当が検証していると聞いている。

(6) 第 6 号議案 今後の多摩デポ講座の企画について

【報告】

- ・今年度は半分が過ぎたが、まだ、会員および多摩地域の図書館員に向けて行う単発の講座が開催できていない。
- ・参加者が見込める講座企画の提案に苦慮していたが、事務局内では年度後半に向けて以下の 2 つの企画を考えている。
 - ① 田中久徳氏に、NDLの進める事業と公共図書館の共同保存事業の関係について話してもらう講演会。総会記念講演の内容と重なるが、あの時は時間が短く質疑時間も取れなかった。あの時の第 3 部の内容を中心に再度、お願いしたい。開くとしたら土日午後が適当か。ただ参加者があまり少ないと講演者に失礼という懸念がある。『ブックレット』発行後がいいが、それでは新年になる。
 - ② 館長会「サービス研」会長の三鷹市立図書館館長（+どなたかもう一人の館長）に蔵書の保存・除籍や共同保存についての考えを聞き、多摩デポ側の構想を返す対話の会。まだは打診していない。公開の場で話してもらえたら、多摩デポとしても館長会や職員の動きとしても、前に進むのではないかと。受けてもらっても開催は新年になる。
 - ③ 理事会の中で、別の企画を出してもらうこともありがたい。

【討議】

- ・田中久徳氏の講演会は総会記念講演会と重なるが、大変手ごたえがある内容だったので、再度お願いするのはいい企画ではないか。
- ・総会で話されたことを元にブックレットにまとめる中で、NDLの進めてきた事業と公共図書館の関係についても、田中氏は考えを深められているようだ。時間は平日の夜より土日の午後の方が余裕があるが、参加者が少ないと講演者に失礼だという懸念は分かる。コロナ前のように、大勢が参加してくれない。
- ・ブックレット発行後がいいが、それでは新年になる。今年度になってから多摩デポ

講座を一つもやれていない、何かやらないと。

- ・図書館職員などをなるべく多く集めるようにするにはどうしたらいいか。
- ・2つ目は、館長会サービス研の会長の三鷹市の図書館長と元会長の東大和市の館長に図書館への想いや蔵書保存へのお考えを聞き、多摩デポ側からも返するような対話の会がやれたらいいのではないか。どちらも定年間近というタイミングもある。
- ・まだ打診しておらず、集会の場に来てもらえるか分からないが、館長会の資料保存の動きにもかみ合っているのではないか。
- ・三鷹市の館長と話していたら、以前に多摩デポ主体でTAMALAS個別処理の実態調査のアンケートを行った時、回答した担当職員だったという話だった。長年の多摩デポの取り組みは理解するが、これから先はどうする？希少な本だったら各館で保存していけばいいということで済むのか？という館長のお考えが見えてきた。話題を振ればいろいろなことを話してくれそうなニュアンスが感じられた。
- ・三鷹市の館長は今年度で定年退職ということなので、年度内にやれたらやりたい。
- ・理事会からも提案があれば出してほしいということだが、多摩地域を中心にミニコミを収集・保存している「市民アーカイブ」の関係者に話してもらおうとか、施設を見学するというのはどうだろう。
- ・住民が発行するミニコミは、自治体内の発行物はなるべく集めるようにしている図書館はあるが、多摩地域全体をカバーして収集するところはないと思うし、都立図書館もカバーしていない。それぞれの自治体の図書館任せなので、実態を知る意味ではいい企画かと思う。
- ・玉川上水駅の近くにある施設は広くはないが、見学しながら話を聞くということも考えられる。
- ・開催したとして、市町村の図書館職員が興味を持ってくれたらいいのだが。
- ・現物が残されていることは強みだ。保存体制はどうしているのか。
- ・書架の間を広げたり、敷地内に増設したりして、どんどん新しい資料を入れている。
- ・「市民アーカイブ」は今年度の活動の中で、各市の図書館に「貴館ではミニコミを集めていますか？」といった調査をしていた。他市で発行されるものはともかく、自分の市内に発行元があるミニコミは集めていますかというような。
- ・そういう意味では、「市民アーカイブ」は、今年度は、独立独歩でなく公共図書館の活動にも向きあってきたタイミングではあるのかな？
- ・私が以前、この団体の人に、どの図書館でも自分の市内のミニコミぐらい集めようとしていませんかと聞いたら、なかなか集めてくれない、持っていても引き取ってくれないと言っていた。その話の中で私が分かったのが、発行母体が市内にあり扱うテーマも市内の発行物なら図書館は扱いやすいが、いろんな市からの参加者がいて、扱う内容が、発行元がある自治体の地元の話題だけではないようなミニコミは、確かに、なかなかこの市も扱わないだろう。多摩川とか、中央線沿線とか、よほどメジャーなくくりでないとなかなか図書館の地域資料にはならない。例えば、

立川市に発行元があるが、他県の人も寄稿するような「同人誌」は、毎号寄贈されても、図書館では扱われにくいだろう。

- ・田中久徳氏の講演会も三鷹市の館長の話聞く会も、時期とか企画を考えて、どちらもやったらいいのではないか。
- ・先方が受けてくれるなら、「市民アーカイブ」の見学と話を聞く会が一番準備がいらないかも知れない。図書館の仕事のヒントになるような話をしてもらえるとありがたい。田中氏の講演は、やはりブックレットの完成後がいい。ブックレットを読んだから参加するという形が取れた方が理解されやすいだろう。三鷹市の館長の話聞く企画も、館長と相談して日程ややり方を決めてください。
- ・結論として、年内には1回、まず、見学会を開催する方向でいきたい。

(7) その他、情報交換

- ・里親探し
 - ・9月後半に、三鷹市と調布市から、他市への図書の提供の申し出があった。
 - ・三鷹市からは発行の古い『漱石全集』等。この『漱石全集』は以前に他市から同様の申し出があり、所蔵する図書館もあるので募集をかけたが不成立だったことがあったので、その経緯を話して、お断りした。
 - ・調布市からは、「日本児童文庫」全77巻揃い（名著普及会の復刻）と、「東洋文庫」不揃い32冊（平凡社）。現在、多摩地域の所蔵館を調査中。今後、募集をかけ、応募があれば配達することになる。
- ・鬼倉正敏（事務局員）の論文
 - ・『多摩デポ通信』第67号に掲載した、『2022年都道府県立図書館の「県」域内市町村立図書館への図書資料の保存の取組ー図書館ホームページから』が、日本図書館協会の『ネットワーク資料保存』第136号に転載された。
<https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/hozon/network/NW136.pdf>
- ・『多摩デポ通信』第68号（7月末に発行した最新号）に掲載した、『東京都立中央図書館50周年記念誌』から、都立図書館の保存方針の変遷と現在を書いた記事（鬼倉執筆）にはやや見落としがあった。次号に書き直した文章を再掲したい。事務局内で確認中。

【多摩デポ関係記事】 【共同保存図書館関連論文、記事】

- ・『2022年都道府県立図書館の「県」域内市町村立図書館への図書資料の保存の取組ー図書館ホームページから』が掲載された『ネットワーク資料保存』第136号が発行された。
<https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/hozon/network/NW136.pdf>
- ・これは日本図書館協会の資料保存委員会に依頼され転載となった『多摩デポ通信』

第 67 号に掲載した鬼倉正敏の論文。

【今後の予定】

- ★ 事務局会議(2024 年度第 10 回) 10 月 15 日 (火) 午後 8 時より、(Zoom 会議)

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 10 月 20 日 (日) 午後 8 時より、(Zoom 会議)

- ★ 次回理事会 第 8 回理事会 12 月 10 日 (火) 午後 8 時より、(Zoom 会議)

議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、雨谷理事、齊藤理事を選任することを
全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024 年 10 月 8 日

議長 座間直壯

議事録署名人 雨谷逸枝

議事録署名人 齊藤誠一